

皮膚科

第2版 2020.5月作成

【研修責任者】 船井 尚子

【一般目標】

皮膚科の診断・治療に関する基本的な知識と技術を習得する。また、皮膚科依頼の必要性について適切な判断ができるようになる。

【行動目標】

1. 皮膚病変を把握し、臨床像を客観的に記載することができる。
2. 一般的なスキンケアを理解し、患者指導ができる。
3. 基本的な検査（真菌検査、皮膚生検、アレルギー検査など）を行うことができる。
4. 基本的な皮膚疾患（湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、薬疹、感染症など）を理解し、診断・治療することができる。
5. ステロイド外用剤・抗真菌剤・皮膚潰瘍治療剤など各種外用剤の特性を知り、的確に使用することができる。
6. 入院治療となった症例に対し、検査や治療の計画を立てることができる。
7. 皮膚病変から他臓器疾患や全身疾患が推測された症例について、他科への依頼が適切にできる。

【経験すべき疾患】

1. 湿疹・皮膚炎群
2. 蕁麻疹
3. 薬疹
4. 皮膚感染症（細菌・真菌・ウイルス）

【方略】

1. 外来で指導医の診療を見学する。
2. 外来で指導医とともに患者の医療面接と診察を行い、検査、診断、治療等に関与する。
3. 褥瘡回診に参加する。
4. 病棟で担当医として診察を行い、指導医とともに検査、治療等に関与する。

【研修評価】

研修終了時に病院の評価法に則って相互評価する。